

福井城址活用に係る検討状況について

1 概要

- ・令和2年9月に「福井城址活用検討懇話会」を設置し、今後の福井城址の活用方策を議論（これまでに4回懇話会を開催）
- ・地域住民をはじめ県内大学等の学生や各種団体などと意見交換を実施した上で、懇話会の提言の骨子（案）をとりまとめ

2 今後のスケジュール（案）

- ・年度内に最終の懇話会を開催し、提言としてとりまとめ

〔参 考〕

福井城址活用検討懇話会委員名簿

	氏名	所属
座長	西村 幸夫	國學院大學教授、東京大学名誉教授
委員	朝倉 由希	公立小松大学国際文化交流学部准教授
	伊藤 香織	東京理科大学理工学部教授
	景山 直恵	アーチザン&パートナーズ代表
	黒川 結加	福井県立大学経済学部3年
	多米 淑人	福井工業大学工学部教授、FUT福井城郭研究所副所長
	角鹿 尚計	福井県立大学客員教授
	中村 総一郎	福井大学学術研究院工学研究科修士1年
	萩原 さちこ	公益財団法人日本城郭協会理事
	前川 小百合	有限会社ビアンモア常務取締役、美めぐりふくい代表

福井城址活用検討懇話会「提言」骨子（案）

1 提言の主旨

- ・福井城址は、現在の福井の礎を築き、現存する石垣や堀は往時の面影を偲ぶことができる歴史的価値の高いもの
- ・これまで、県と福井市が策定した『県都デザイン戦略』（平成25年3月）に基づき、山里口御門の復元や御座所など埋もれている遺構を活かした中央公園の再整備などを実施
- ・福井城址は、「県都のシンボル」として次世代に継承していくべきものであり、引き続き、県民に愛され、誇りとなる歴史資産として磨き上げていくことが必要

〔提言の内容〕

- 『県都デザイン戦略』の方向性を受け継ぎ、福井城址活用の目指すべき姿を提示
- 県庁舎等が、相当の期間、利用可能な状況のもと、新幹線開業に向けて短期に対応すべき活用方策と、2040年に向け中長期に対応すべき活用方策を提案

◆目指すべき姿

- (1) 歴史に触れ、学びを深める空間
- (2) 人が集い、にぎわう、開かれた憩いの空間

◆目標年次

- 短期 2024年 北陸新幹線 福井・敦賀開業
- 中期 2030年
- 長期 2040年 「福井県長期ビジョン」の目標年次

2 2040年までの具体的な活用方策〔短期・中期・長期〕

(1) 歴史に触れ、学びを深める空間

①歴史を感じさせる城郭施設の復元

- ・坤櫓や城址西側土塀の復元〔短期～中期〕
- ・巽櫓や多間櫓等を復元〔中期～長期〕

②既存資源の適切な保全、利活用〔短期〕

- ・城址周辺の歩行者空間の拡充や案内表示の充実
- ・石垣等のライトアップやプロジェクションマッピング
- ・お堀での遊覧船運航などのイベント開催

③福井城址の歴史を知る・学ぶ機会の提供〔短期〕

- ・VRアプリの機能拡充、まち歩きの開催など学習機会の創出
- ・SNSやホームページなどによる情報発信の充実



福井城坤櫓（福井温故帖「越葵文庫」蔵）



石垣のライトアップ（R3春）

(2) 人が集い、にぎわう、開かれた憩いの空間

①人が集うにぎわいづくり〔短期～中期〕

- ・城址の風情を感じられるカフェなどの設置
- ・フリーマーケットや野外コンサート・アートフェスティバルなどのイベント開催

②緑豊かで開かれた憩いの空間づくり〔短期〕

- ・緑化などの憩いの環境整備
- ・樹木などの日陰で休憩できるスペースの設置



カフェ設置のイメージ（中央公園）



ワンパークフェスティバル（中央公園）

（参考）将来的な活用の方向性（2040年以降を想定）

○ 県庁舎等（県庁舎 築40年、警察本部庁舎 築33年）は、福井県公共施設等総合管理計画の使用目標年数（80年）から見て、相当の期間、利用可能

○ 県庁舎等移転後の城址内については、多目的な利用が出来る空間としておくべきという意見が大勢

将来的な活用の方向性

- ・城郭施設については、本丸正面の瓦御門を復元
- ・城址内は、オープンスペースとして多様な用途に活用



（将来）県庁舎等移転後の活用イメージ